

広報 かみす

2024年
10/1
No.422

Kamisu public relations



特集
神栖ディスカバリー File 16

神栖ウインド アンサンブル

吹奏楽が結ぶ人と人のハーモニー

Pick up
出張！なんでも鑑定団in神栖 P6~7
公立・私立保育所(園)などの一斉募集 P10~13
放課後児童クラブ利用者募集 P15

「音楽好き」が集まる神栖ウインドアンサンブル。幅広い年代の人々が、吹奏楽を通して絆を深めています。(写真左から小林さん、和泉さん、津崎さん)



市メールマガジンはコチラ



広報かみすが動き出す
[COCOAR]アプリをダウンロード
し表紙にスマートフォンをかざして
ください。詳しくは18ページ



特集

神栖ウイングアンサンブル

吹奏楽が結ぶ人と人のハーモニー

神栖市で唯一の吹奏楽団、神栖ウイングアンサンブル。幅広い年代の市民が音楽で結ばれ、和気あいあいと、そして熱心に活動しています。今回は、演奏する人も聴く人も楽しめる吹奏楽の魅力に迫ります。

さまざまな音色を全身で聴く

吹奏楽というと、皆さんは何を思い浮かべますか。学校行事のときに吹奏楽部の演奏を聴いたり、音楽室で練習する音が放課後の校庭に流れたり……。そんな思い出のある方も多いのでは？

日川公民館からも毎週水曜日の夜、いろいろな楽器の音が聞こえてきます。一日の仕事や家事を終えて集まつてくるのは、神栖ウイングアンサンブルの皆さん。約12年前に神栖市で初めて結成された市民吹奏楽団です。その練習の様子を見学させて

もらいました。

そもそも吹奏楽というのは、主に木管楽器・金管楽器・打楽器で演奏される音楽で、弦楽器は唯一コントラバスだけが加わります。この日は定期演奏会に向けた練習に団員など25人が参加しました。

指揮者の一振りで演奏が始まります。クラリネットの柔らかな音色に、フルートの華やかさとピッコロの軽やかさ。伸びやかなトランペットと、どっしりした重低音のチューバ。リズムを刻む打楽器。指揮者の指示で中断しては、部分的に修正し、また合奏を再開します。指揮者と楽団員





の間で交わされる無言の会話。その場にいるだけで音の振動が体全体に伝わってきて、耳だけでなく全身で吹奏楽を聴いているような感覚に包まれました。

大切なのは演奏を楽しむこと

神栖ウイングアンサンブルの活動や吹奏楽の魅力について、団長の和泉好明さん、指揮者の小林一志さんと津崎未佳さんに話を聞きました。

現在の団員数は23人。年齢は10代から70代までと幅広く、親子で入団している人もいるそうです。「私は高校生の時に入団したのですが、年齢の離れた皆さんのが吹奏楽の仲間としてやさしく迎え入れてくれました」と振り返る津崎さん。

最年長の小林さんは「音楽に年齢は関係ありません。プロではなくアマチュア集団ですから、みんなで演奏を楽しむことが一番の目的です」と話します。その言葉どおり、団員同士の雰囲気はとても和やか。ただし練習と



津崎さん



和泉さん



小林さん



指揮者の一振りで演奏が始まり、木管楽器や金管楽器などさまざまな楽器の音が溶け合って美しいハーモニーが響き渡る



なると誰もが真剣な表情になります。なり、めりはりが利いています。

主な活動について和泉さん

が教えてくれました。「メインは毎年秋の定期演奏会です。他に、かみす防災アリーナで開催されるかみすフェスタ、神栖市民音楽祭、地域のお祭りなどで演奏をしています。また、市内小・中学校に団員が訪問し、吹奏楽部の生徒さんにアドバイスをする活動もしています。生徒たちには、卒業後も一生の趣味として音楽を続けてもらいたいですね」

実は団員数が少ないと、演奏できる曲も限られてしまうのだとか。定期演奏会のときは、交流のある近隣の吹奏楽団に不足人数の応援を依頼している状況だそうです。「何年ブランクがあつても大丈夫ですので、また楽器を演奏したいと思う方は、ぜひ遊びに来てください」と呼び掛けます。

仲間との一体感が生まれる瞬間

演奏する人にとって吹奏楽の魅力とは何なのか、3人に聞いてみました。「いろいろな楽器が集まって演奏をしますが、練習をするほど一つに



2023年にかみす防災アリーナで行なわれた第7回定期演奏会



練習を重ねるごとに一体感が増す

まとまつていき、一体化したときの感動は演奏者しか味わえません。しかもステージ上でそれができたときは最高です」と話す和泉さん。小林さんは、その一体感を絵画に例えて

「まるでモネの絵のように、さまざまな色彩(楽器)で音楽を描けるのが魅力ですね」としてきに表現します。続けて津崎さんも「吹奏楽は一人ではできないものなので、仲間で一つの曲をつくり上げていく喜びがあります。

選びます

津崎さんは東京の音楽大学に進学して一時期楽団を離れていましたが、神栖市に戻って中学校の音楽教員となり、再び楽団に加わりました。ほかの団員も、さまざまな人生経験を経て今があります。「今までの人生経験が『音楽の味わい』や『演奏を

合わせる力』に表れます。そこも市民楽団の魅力だと思います」「聴いてよかったです」と思える曲を選ぶ吹奏楽の特徴の一つは、多彩なジャンルの曲を演奏できること。吹奏楽のためのオリジナル曲をはじめ、クラシック、行進曲、ジャズ、ポップス、ロック、さらに映画の主題歌、アニメソングまで、その幅広さには驚くばかりです。一体どのようにして演奏する曲を決めているのか、小林さんが答えてくれました。

「団員から候補を挙げてもらい、

その意見を取り入れて最終的に私が判断します。私のポリシーは、聴衆の皆さんに感動していただける曲を選択すること。あまり知られていない曲でも、「ああ、聴いてよかったです」と思っていたらするのが目標です。もちろん、皆さんのがよく知っている曲も

合わせる力』に表れます。そこも市民楽団の魅力だと思います」「聴いてよかったです」と思える曲を選ぶ



聞きました！ 定期演奏会の見どころ

4種類のトランペットを持ち替えて演奏します。
音色の違いにも注目してください！



トロンボーン奏者は、演奏会前にスライドを落とす夢を見るのがあるあるの話です。頑張ります。

楽しい曲は手拍子をして一緒に楽しみましょう♪



メイン曲『プスター』では、私たちクラリネットが大活躍します！

低音で音楽を支えるチューバにも注目。楽器が大きいのでセダンタイプの車は買えません。



第8回定期演奏会

公演日時 10月6日(日) 午後1時30分開演(午後1時開場)

会場 かみす防災アリーナ 音楽ホール

プログラム 『秋空に(行進曲)』『主よ、人の望みの喜びよ』『塔の上のラブンツェル・メドレー』『プスター』ほか

舞曲。そう教えてもらっただけで遠い異国の風景が思い浮かび、曲の印象がずいぶん違って感じられます。

手拍子で盛り上がるのもOK！

10月6日(日)にはかみす防災アリーナ音楽ホールで、第8回定期演奏会が開催されます(入場無料)。

『秋空に(行進曲)』『主よ、人の望みの喜びよ』『塔の上のラブンツェル・メドレー』『プスター』などの演奏が予定されていますので、この機会にぜひ聴いてみませんか？

ところで、吹奏楽を楽しむコツがあるのか質問してみました。「しかし、こまらず、リラックスして聴いていたくのが一番です。楽しい曲なら手拍子をしてもらつてもいいですよ。ワクワクするようなリズムの曲は、団員の方から手拍子を誘うこともあります。お子さんや赤ちゃんも一緒に連れてきてください」

『プスター』は舞曲なので、自然に体でリズムを取りたくなるかもしれません。肩の力を抜いて楽しめそうですね。

の定期演奏会となるので、節目にふさわしい曲や演出をしたいと考えています」と構想を語る和泉さん。コロナ禍では活動がままならず、「音楽の火を消さないように」と頑張つて活動してきましたが、定期演奏会を開催できない年が続きました。それもあって、団員の大きな目標となっている定期演奏会にかける思いは熱いものがあります。

神栖ウインドアンサンブルへの熱い思いは、指揮者の2人も同じです。「この楽団は確実に成長しています。これからも少しずつでいいので成長し続けてほしい。それが望みです」と話す小林さんと、「小中高で吹奏楽を始めた子どもたちが、社会人になつてまた演奏したい」と思つたときに戻れる



「居場所」になることを願つています。そうなれば、神栖市の吹奏楽がもっと盛り上がっていくでしょう」と、今後を見据える津崎さん。

「ぜひ一緒に楽しみましょう」と声をそろえる3人。聴きたい人も、演奏(入団)したい人も、気軽に足を運んでみませんか？

吹奏楽団への思いは熱く

「順調にいけば、再来年は第10回